

授業概要

本科目では日本の古典文学の作品を取り上げその作品を多角的な角度から読み解く講義を行う。今回は『源氏物語』を講義する。『源氏物語』は1008年に一部が成立し、平安時代の中流階級の女性・紫式部によって書かれたとされる長編物語である。主人公光源氏の一代記である第一部・第二部とその子孫たちの第三部長編物語であり心理描写とその複雑で巧みな構造から物語文学の最高峰の一つとされ世界30か国以上で翻訳もされている世界的な古典作品である。半年間この作品のもつ謎を解き明かすような観点から講義を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション。受講の注意。基礎知識の確認。導入
第2回	『源氏物語』の本当の成立年代はいつか—1008年とはどういう年か
第3回	『源氏物語』の作者は本当に紫式部か？ 彼女一人が作者なのか？
第4回	『源氏物語』はどんな順序で執筆されたのか—成立論について
第5回	『源氏物語』の中の帝と現実の帝の相違とは何か—過去現在未来
第6回	『源氏物語』と『紫式部日記』の関係—場面の類似をみる
第7回	『源氏物語』の「光る君」「光源氏」の呼称の差異とは何か
第8回	『源氏物語』に描かれた動物—猫が行き来する時空
第9回	世界の中の『源氏物語』—各国の翻訳とオリジナルの相違とは何か
第10回	コミック化された『源氏物語』—『あさきゆめみし』などの作品を読む
第11回	『源氏物語』の中にはどんな文（ふみ）があるか—手紙と人間関係
第12回	『源氏物語』は本当に54帖だったのか—存在しない雲隠巻・輝く日の宮巻とは何か
第13回	『源氏物語』にはどんな結婚があるか—略奪・政略・不倫・競争（離婚）
第14回	史実・現実の皇室と『源氏物語』の帝—内親王・女三宮の降嫁事件とは何か
第15回	全体のまとめ
第16回	定期試験

到達目標

- ① 平安時代を中心とした古代日本の文学や文化の知識を身につけそれらの概略を論じることができる
- ② 『源氏物語』について多面的な知識をもち人に説明することができる

履修上の注意

授業に出席することだけが重要なのではなく、前もって予習し授業のあとで復習する気持ちを強く持って主体的に関わってほしい。資料は適宜配布するがそれに頼りすぎずメモをとることを習慣にすること。

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと
 復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと

評価方法

期末試験（70%）・受講態度（30%）で総合的に評価する。

テキスト

特にあらかじめ学生個人が用意する必要はない。但し授業で扱う『源氏物語』の原文及び現代語訳付きの文庫本はもっておくと講義の内容がわかりやすくなるのもつことをお薦めする。参考文献として木村朗子『女子大で源氏物語を読む—古典を自由に読む方法』（青土社 2016年）をお薦めする。